



私実践してみたアクティブラーニング？

佐伯市立松浦小学校 氏名 川上修司

対象：教職員		実践の場：松小ブロック授業作り研修会	
実践内容	協調学習の主たる学習方法である「知識構成型ジグソー法」を用いて、3つのデータから授業改善の方策を検討した。		
ALとしてのポイント	①授業改善という教員に求められる喫緊の課題を対象とすることで、参加者全員が自分ごととして参加できる。(主体的な学び) ②エキスパート活動、ジグソー活動というこの学習方法の特色を生かすことで、少人数グループの中で参加者全員が自分の考えを説明したり、他者の意見を聞いたりする場面設定が容易である。(対話的な学習)・・・以上、必要条件 ③決められた正答がない中で、それぞれの意見を聞きながら、よりよい方策を導き出そうと協議する中で、それまで意識していなかった考え方や新たな考え方等、自分たちなりの方策を考える中で、授業改善についてより深い認識を持つことが期待できる。(深い学び)・・・十分条件		
課 題 データから課題を分析し、授業改善の方法を考えよう！			
活動1：授業についての課題と改善方法について、個人の考えを記述する。			
活動2：エキスパート班に分かれ、データから授業の課題を検討する。 データ1→大分県学力状況調査の各教科の調査結果 データ2→1学期末の児童および教職員へのアンケート調査結果 データ3→8月1日公表の中教審(素案)に記述された、これからの授業の方向性に関する記述			
			
活動3：ジグソー班になり、3つのデータについての分析を紹介しあい、その分析に基づいた授業改善策を検討する。			
			
活動4：各グループで考えた方策を紹介し、自分のグループとの共通点や相違点を考える。			
活動5：最初に考えた自分の分析および授業改善の方策と活動後のものを比較し、自己の学びを振り返る。			
所感 ALは目的ではなく、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための方法である。したがって、「 <u>どうする</u> 」かよりも「 <u>何のためにする</u> 」が重要である。この活動では、決まった答えのない課題について協力しながら自分たちなりの正答を導き出すことによる学びを主たる目的として実践してみた。 ただし、今回は教員というある程度レベルや課題に対する意識がそろった集団での取り組みだったので比較的スムーズにできたが、小中学校のように、教室に多様な児童生徒がいる状況では、さまざまな配慮が必要となる。 いずれにしても、ALを目指すときに「これをすれば」という固定された方法を行うのではなく、目の前にいる児童生徒の状況を踏まえるとともに、さまざまな学習方法のメリット・デメリット双方をしっかりと理解したうえで取り組むことが重要である。			